

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

- 1 日 時 令和5年5月27日(土) 13時から15時
 2 場 所 河原木団地 集会所
 3 出席者 23人(八戸学院大学 学生2人、地域関係者21人(民生委員、町内会など))

4 開催概要

(1) 話題提供

「八戸市の高齢者の状況と見守り活動」

八戸市 福祉部 高齢福祉課 主査兼社会福祉士 山口 誠

「地域包括ケアシステムの解説」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 講師 大木 えりか 氏

(2) グループワーク

テーマ「コミュニティ○○ワーカーがいたらいいな」

八戸学院大学 健康医療学部 人間健康学科 助教 米田 政葉 氏

- 自己紹介
- 河原木団地での困りごと、課題を挙げる
- 困りごとや課題の整理
- 自分たちで対応できる解決策を考える
- 全体共有～各グループから検討した内容について発表
(検討した主な内容)

| 項目 | 困りごと・課題 | 自分たちで対応できる解決策 |
|-------|--|--|
| 健康 | <ul style="list-style-type: none"> ○加齢とともに体力が落ちているので先のことが心配。 ○腰痛のため歩くことが大変。 ○目が見えにくくなってきた。 ○歩く時に、つまづくことが多くなってきた。 ○会話が聞き取れなくなってきた。 ○物忘れや探しものが多くなり、名前が覚えられなくなった。 | <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者サロンを通じて仲間と楽しみながら体を動かすことで介護予防や物忘れ予防を行う。 ○高齢者の困りごとは高齢者支援センターはくじゅに相談し必要なサービスに繋いでもらう。 ○介護予防教室に参加したり、そこで学んだことを取り入れる。 ○毎朝、ラジオ体操をしたらどうか。 |
| 一人暮らし | <ul style="list-style-type: none"> ○団地内に一人暮らしが多くなってきた。 ○話し相手がいない。 ○今まで楽しかったことが楽しめなくなってきたことが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が多くなってきているので近所同士で助け合って生活する。 ○共通の趣味を持つ人同士が、集会所などに集まり活動したらどうか。 |

| | | |
|------|--|---|
| 見守り | ○引きこもりがちで、外に出ない人がいる。 ○介護する側も体が不自由で、ようやく母親の介護を頑張っている人に対してどのような声掛けをすればよいのか。 | ○班長やほのぼの協力員など地域で気になる高齢者を見守っていく。 ○高齢者支援センターはくじゅへ相談し対応を依頼する。 |
| 奉仕 | ○草取りが大変である。 ○買い物や食事の支度が不自由。 | ○草刈りボランティアの募集ポスターを作成する。 ○大学にボランティアサークルがあり、そちらに相談したらどうか。 |
| ごみ捨て | ○ごみ捨てルールが守られていない。 | ○地域全体でルールや役割を決めて対応する。 |

5 今後の取組

- 河原木団地の地域住民が、今回のワークショップを通じて地域の困りごとや課題について、解決策を話し合うことができた。
- 河原木団地は、町内会、民生委員、ほのぼの交流協力員、高齢者サロンなどのメンバーの結びつきが強い。日頃から高齢者を見守っているほかにも、団地内の集会所や公園で集まり、体を動かしたりするなど介護予防にも取り組んでいる。
- 河原木団地の地域住民は、団地内の高齢化などにより高齢者の見守り体制について関心が高く、高齢者の見守りネットワークの新規立ち上げについて必要性を感じている。
- 高齢者の地域の相談窓口である高齢者支援センターはくじゅが、河原木団地に対して、高齢者の見守りネットワークの新規立ち上げについて支援をする。
- 河原木団地が高齢者見守りネットワークとして立ち上がった際には、団地型の高齢者見守りネットワークのモデルケースとして新規立ち上げを検討している団地に対して取組について紹介していく。